



保存版

# 子育てひろばのための災害対策ガイド

# 備えの 1 2 3 いち に さん

みんなで  
話し合ってみましょう

東日本大震災を経験した多くの子育てひろばから、「避難訓練等、普段の備え以上のことはできなかった。行政との連携など課題が残った」というメッセージをいただきました。災害大国の日本では、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震など、災害はどこでも起こり得ます。そこで、ひろば全協では、各地のひろばの危機管理の知恵や、これまでの震災の体験談を伺い、皆さんのひろばで検討いただくためのツールを作成しました。いざという時に、利用者と共に子どもを守れる子育てひろばであるためにも、ぜひ、自分たちのひろばに合った備えを確認してください。



NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

※子育てひろば＝地域子育て支援拠点など乳幼児の子育て家庭の親子が交流する場のことを指します。

## 備えは大丈夫？

時に私たちの想定をはるかに超えておきる自然災害。「災害」そのものは防ぐことができなくても、「減災」に努めることはできます。下記のチェック項目を参考に、発生前から災害後の復興までを見据え、対策はしっかりできているか、確認しておきましょう。

備える  
1

### ひろばの中で

～準備・点検と話し合い～

- 環境 ・施設内の安全点検
- もの ・非常用持出品  
・非常用物資
- ひと ・スタッフの役割
- ひろばに期待されている役割

備える  
2

### その時、慌てないために

～避難訓練とマニュアル作り～

- 避難訓練 ・避難訓練マニュアルの作成  
・避難経路の確認  
・年間計画表の作成  
・避難訓練後のふり返し など
- 災害マニュアル ・そのとき! (災害発生時)  
・安全確保ができたなら

備える  
3

### ひろばの外と

～連携と助け合い～

- 行政と ・緊急時の対応を協議する
- 地域・広域と ・助け合えるつながりを
- 利用者と共に ・ひろばの対応を考える
- 消防署と ・連携して防災を学ぶ

## 備忘録

一時避難所

広域避難所

緊急時の連絡先

2019年2月1日第3版発行

編集・発行 / NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

〒222-0037 横浜市港北区大倉山 1-12-18-303 TEL:045-531-2888 045-546-9970 FAX:045-512-4971

Email:info@kosodatehiroba.com http://kosodatehiroba.com

デザイン・制作 企業組合エコ・アド

— 住友生命創業 100 周年記念事業「未来を築く子育てプロジェクト」助成事業 — ※無断複製、転載を禁じます。

# 備える 1

## 準備・点検と話し合い ひろばの中で

災害に備えて、私たちにできることは何でしょうか？  
そして災害後の「ひろばの役割」とは？  
今、この時にひろばの中でしっかり話し合い、準備しておくことが「ひろばの危機管理」につながります。

### 環境

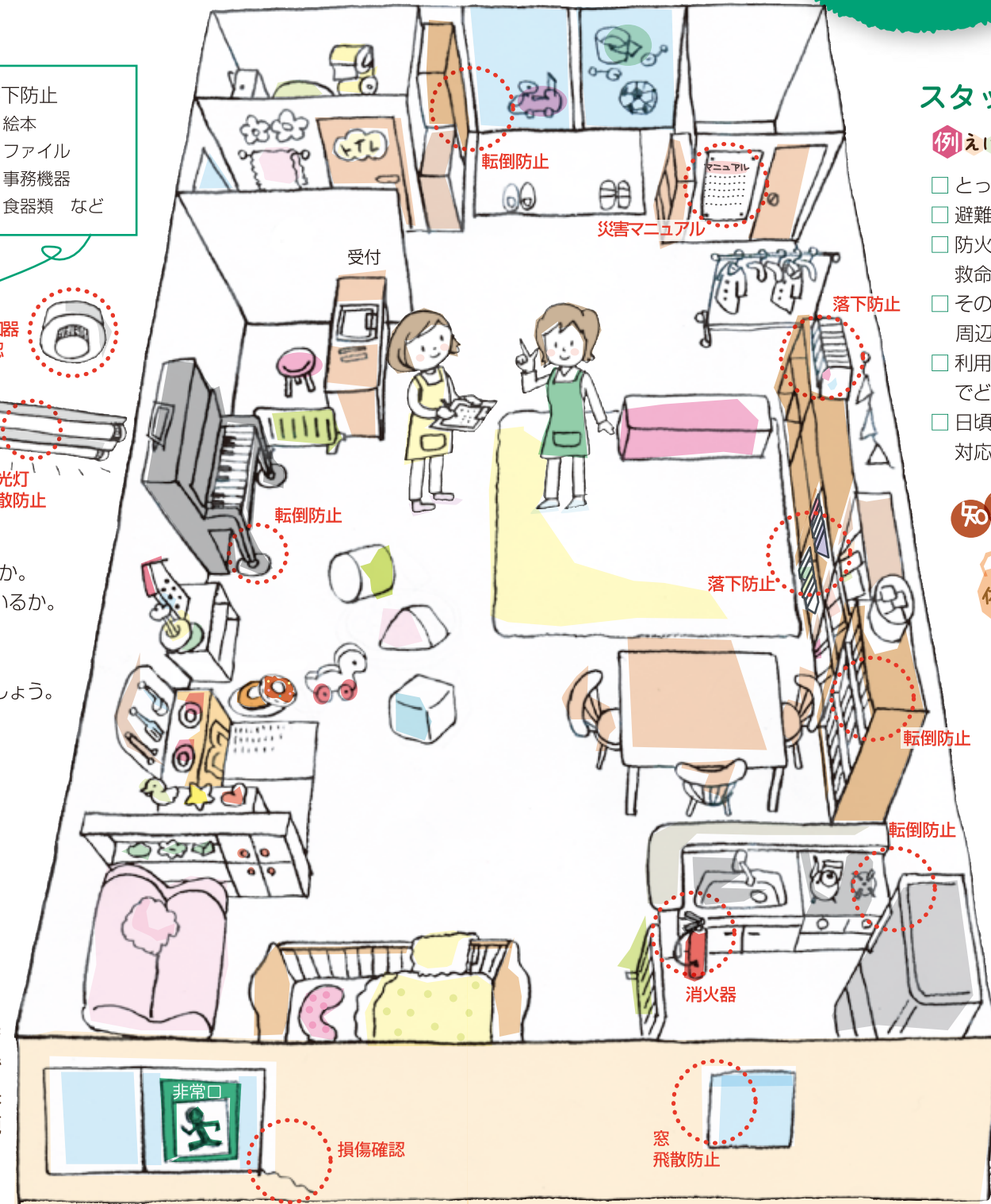
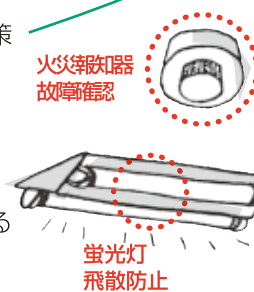
ぐらっと来たとき、ひろばはどういう状態になるか？  
転倒防止策を行う、避難経路を確保しておく等、安全点検表を作成して確認しておきましょう。また定期的にチェックすることも大切です。

#### 施設内の安全点検

##### 例えはこんなこと

- 消火器は備えているか。
  - 火災報知器は壊れていないか。
  - 家具や備品などの転倒・落下防止対策は大丈夫か。
  - 高いところにもものを置いていないか。
  - 照明・窓ガラスの飛散防止対策は大丈夫か。
  - テラスや外部の避難経路に障害となるものはないか。
  - 非常口がわかるようになっているか。また非常口をふさぐものは置いていないか。
  - 一時避難所の場所や避難ルートを確認しているか。
  - 安全点検する箇所を決めて、定期的に点検しているか。
  - 緊急時の災害マニュアルは掲示されているか。
  - 災害前の建物の損傷を把握しているか。
- など、それぞれのひろばに合った対策を考えてみましょう。

- |                                |                                 |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 転倒防止                           | 落下防止                            |
| <input type="checkbox"/> ピアノ   | <input type="checkbox"/> 絵本     |
| <input type="checkbox"/> 冷蔵庫   | <input type="checkbox"/> ファイル   |
| <input type="checkbox"/> 本棚    | <input type="checkbox"/> 事務機器   |
| <input type="checkbox"/> 靴箱 など | <input type="checkbox"/> 食器類 など |



### もの

避難は人命優先が第一。物資の準備は必須ではありませんが、非常用持出品として、まず人命にかかわる最小限のもの、次に安全確保した後に必要となる非常用物資を、可能な範囲で備えておきましょう。

#### 非常用持出品

避難時に持ち出すもの、命を守るために必要なものを考えます。持出品は、消防署とも話し合っておきましょう。保管する場所も、入口近くや非常口付近など数か所に置くことも検討してみましょう。



##### 例えは

- 懐中電灯
- 救急用品
- ラジオ・防災ラジオ
- 毛布
- おんぶひも
- 防災頭巾・ヘルメット (避難する際にできるだけ配布できるように)
- 受付名簿 (建物内に誰が居たのか確認するため)
- 金庫 (可能であれば)

#### 非常用物資



非常用物資は安全確保ができた上で、しばらく待機することを想定して必要となるものを準備しておきます。ただし、ひろばの規模や状況によって備えられる数や量も変わってきます。無理のない範囲でそれぞれのひろばに合った備えを考えましょう。

##### 例えは

- 水 (飲料用)
- 水 (トイレ用)
- おむつ
- ミルク
- 着替え
- 救助機材
- 非常食 (乾パンなど)
- 非常用トイレ

### ひと

災害発生時、その場にいる限られたスタッフの中で、役割分担をどう行うのか。施設長が不在の時、指示を出すのは誰か。シフト制によりスタッフ全員がそろっていないくても、対応できる体制を作っておきましょう。また、スタッフとして普段からしておく備えも考えましょう。

#### スタッフの役割

##### 例えはこんなこと

- とっさの時の役割分担を決めておく
- 避難経路をスタッフ全員で確認する。
- 防火管理者や救命の講習を受けるなど、防災・救命の知識を身につけ、スタッフで共有する。
- その地域に居住していないスタッフは日頃から周辺を歩き確認しておく。
- 利用者が全員帰宅するまでの時間を、スタッフ間でどのようにつないでいくのか、協議しておく。
- 日頃からひろばの適正人数を把握し、緊急時に対応できる範囲を知っておく。 など

- 避難指示
- 行政との連絡
- 避難口の確保  
窓・ドアを開ける
- 受付名簿の持ち出し
- 誘導  
誘導するスタッフ  
最後尾につくスタッフ  
防災頭巾の配布
- 火元の確認  
ブレーカー  
ストーブ  
コンロ  
ガス

#### 知恵のひろば

東日本大震災ははじめ過去の災害を通して、子育てひろばの実践者から得た体験談を紹介します。

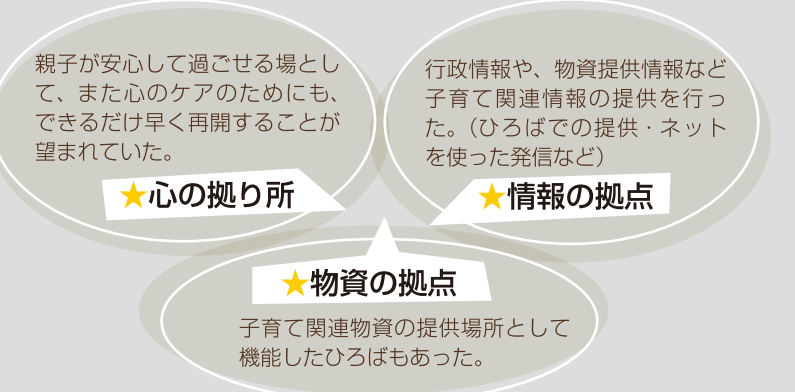


**施設長**が不在時の災害では、電話も通じず誰の判断で行動すれば良いのか混乱したので、対応を考えておく必要があります。

**スタッフ**も被災することを忘れずに、家族内でも話し合っておくこと、また、スタッフ同士でも、緊急時にどうするか確認しておくことが大切だと思いました。

#### ひろばに期待されている役割

東日本大震災を通して、子育てひろばは、日常の生活に戻るまで様々な役割を担いました。日頃から、「自分たちのひろばがどこまで担えるのか」を話し合っておくこと、また、スタッフだけでなく、利用者の協力も得ながら子どもの安全を守る意識も大切です。



乳幼児子育て家庭は「災害時要援護者」と位置づけられています。実際の災害時には、支援情報や物資は届きづらく、子どもにとって生きていくために大切な遊び場の確保も遅れました。特に行政が被災した地域では、在宅子育て家庭の把握が遅れ、多くの親子が寄り添い状態にありました。そんな中、早期に再開したひろばは、情報提供のほか、親子の心のケアに至るまで長期にわたり大きな役割を果たしています。

※災害初期のニーズと半年後のニーズでは時間経過によって変化し、拠点の役割も変わってきます。弾力的な判断が必要です。

突然ぐらっと来たら？  
まず、スタッフがあわてず落ち着いて行動することが肝心です。そのために日頃から様々な災害を想定した避難訓練を行い、それぞれのひらばで取るべき緊急時の行動をスタッフ全員で共有しておきましょう。

# 避難訓練

避難訓練を行うには、事前の準備が大切です。当日の流れなどスタッフ同士で話し合うことはもちろん、「避難訓練の意義」もみんなで共有しておきましょう。

### 避難訓練マニュアルの作成

- 避難訓練の意義について、スタッフ間で話し合う。
- 災害の種類・規模を想定して計画する。
- 災害時のリスクを全員で共有する。
- 訓練当日の流れをシミュレーションし、タイムテーブルを作成する。
- 訓練開始前から実施後の流れまで
- 緊急連絡網を作成する。
- 主なスタッフや行政など

- 地震の規模
- 火災の有無や発生場所
- 水害の有無や発生場所 など

- 停電
- ガスや火の安全
- 出口混雑
- 断水
- 浸水
- 通信障害 など
- ガラス割れ

### 避難経路の確認

- 施設の建物の状況に応じて、避難口や経路を確認し、全員で共有する。



### 年間計画表の作成

- 地震・火災・水害など災害の種類に対応した訓練や防災講習会の開催など、年間を通じた計画表を作成する。

想定する

準備する

共有する

行動する

### 避難訓練後の振り返り

- 学んだこと・改善点を話し合う。
- 当日参加しなかったスタッフへの報告と反省点を共有する。
- マニュアルの見直しを行い次回の訓練に活かしていく。



### 避難訓練開始

- マニュアル通りにはいかないことを訓練を通して理解しておく。
- 消防署（派遣要請をした場合）からの総評やアドバイスをもらう。



### 消防署への連絡

- 派遣を依頼する場合は、担当部署に連絡し実施日の調整を行う。

### 告知について

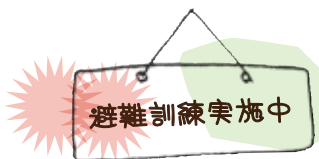
- 訓練の大切さを利用者にも理解してもらうように周知する。
- 事前に妊婦や参加しづらい人にも配慮した方法を考えておく。
- 町内会や同じ建物内の施設にも告知しておく。

### 事前打ち合わせ

- 当日出勤するスタッフを確認し、訓練の流れについて話し合う。
- 役割分担・当日までに準備するものを確認する。

### 当日の準備

- 朝の開館時から、利用者に避難訓練の実施を周知する。
- 入口に「避難訓練実施中」、受付には「避難訓練の案内」を掲示する。



災害直後に乳幼児連れで遠い避難所には移動できず、近くの空き地に避難した後、指定避難所へ移動しました。一時避難所を決めておくと良いと思います。

靴箱が倒れて、靴を履いて避難するのが難しい状況だったので、転倒防止策が必要でした。

自分たちの地域の消防署からは、何も持たずに逃げるよう言われています。状況にもよりますが、人命優先の臨機応変な判断が大切です。

地域の青年団と一緒に避難訓練をしているので、いざという時かけつけてくれる安心感があります。

訓練はしていても、実際は書棚を押さえるので精一杯。命を守る最善の行動は何だったのか課題が残りました。

利用者の帰宅判断が難しかったです。あのタイミングでの帰宅が本当に良かったのか。交通機関、火災、津波などの情報提供が減災につながります。

# 災害マニュアル

災害発生時、とっさにできることは限られます。命を守るために、すぐにとるべき行動をわかりやすく簡潔にまとめ、見やすいところに掲示しておきましょう。

## そのとき!

例として

### ぐらっときたら

- ひろばの中心部分に利用者を集める
- 落下物への注意喚起。特に子どもたちの頭を守る
- 出口を開けて避難経路を確保する

### 避難誘導

- 誘導するスタッフ・最後尾につくスタッフ、即座に動く
- 靴をはく・荷物や上着を着るが瞬時に判断する
- 利用者親子の手助け
- 逃げ遅れている人はいないか確認

### ゆれがおさまったら

- けがや具合の悪い人はいないか声を掛け合う
- 防災頭巾・ヘルメットの配布
- 避難するかしないかの判断
- 電気ブレーカーを落とす

### 火災が発生したら

- 大声で火災発生を知らせる
- 消防署に通報
- 初期消火に努めるが、火が大きくなった場合は、すみやかに避難する

## 安全確保が できたら

例として

### 安否確認

- 受付名簿をもとに、不明者はいないか確認

### 救護

- 消防署へ連絡
- 救助が来るまでの応急措置

### 行政への連絡

- 状況報告（徒歩で行くことも想定する）
- 援助の要請・対応確認
- 緊急連絡網の活用

### 情報の収集と発信

- ラジオ・携帯等で正しい災害情報を入手
- 通信手段を確保（伝言ダイヤル・メール・HP など）

### 非常用物資の確保

- 備蓄品がある場合は配布する
- 不足物資の確認・確保

### 帰宅・閉館の判断

※判断のルールを事前に決めておく  
※一時預かりの場合の対応を確認しておく

### 被害把握

- 建物の損傷があるかどうか

災害時の対応は、被害の状況や時間の経過によって刻々と変わっていきます。ひろばの中だけで判断せず、まずは行政としっかり連携を取ることが肝要です。また他の団体とのネットワークを活かし、相互援助できる体制を普段から築いておくことを心掛けましょう。

### 行政 と緊急時の対応を協議する

災害が発生したとき、まずは所轄の部署と連絡を取り連携することがもっとも重要です。自治体直営、委託、補助など、それぞれのひろばの運営形態によって対応すべき内容が異なりますので、担当部署と事前に協議をし、記録しておきましょう。また代表者だけでなく、スタッフ全員で協議内容を共有しておきましょう。

#### 協議内容の例として

- 開館・閉館の判断の基準と決定者はだれか。
- 電話が繋がらないときの対応はどうか。
- 行政も被災した場合、どうするか。
- 人的、物的、建物などの被害の報告の項目は？
- 建物の大家、町内会、商店街など、行政以外に連絡が必要などところはどこか。
- 一時預かりを行っている場合、緊急時の判断基準は？（親が迎えに来られないとき、いつまで預かるのかなど）
- 一時避難所や避難経路は行政と共有できているか。（一時避難所・広域避難所・福祉避難所・地域の防災拠点等を地図に書き込む）
- 近隣住民がひろばに避難してきた場合の対応についてどうするか。など



### 地域・広域 と助け合えるつながりを

普段から地域や他の団体とのつながりを持つことはひろばの大事な役割のひとつでもあります。そして緊急時には日頃のネットワークを活かして助け合っていくことが、災害後の復興への大事な足掛かりとなります。それぞれのひろばの状況に合わせて考えてみましょう。

#### 例えはこんなこと

- 近所との交流は普段からしているか。
- いざという時、連携できる近隣の団体があるか。
- 地域のコミュニティや団体と緊急時の対応など話し合う場があるかどうか。
- 遠方の団体ともネットワーク作りをしているかどうか。
- 自分たちが支援できるとしたらどんなことか。
- 他団体との連絡先リストは作っているか。など



#### 知恵のつぼ

##### 体験談

**携**帯電話もつながらず、被害状況や閉館の連絡をするために役所まで歩くのが大変でした。

**行**政だけでなく、心配された大家さんや商店街、町内会にも連絡を入れる必要がありました。ひろば単独での開館、閉館判断はできません。

**一**時預かりの保護者が迎えに来られない状況で、夜遅くまでスタッフが預かったものの、行政と対応を確認しておく必要がありました。

**利**用者の声として、行政が水や非常用物資を配布するときは、子どもを抱えてなかなか取りにいけないので、ひろばに届けてほしいという要望がありました。



#### 知恵のつぼ

##### 体験談

**地**元青年会議所、中間支援NPO、災害支援NPOと日頃からつながっていたので、物資が早く届きました。

**姉**妹都市として自治体同士のつながりがあったので、その関係を通じて被災地に物資を送ることができました。

**遠**方の団体と交流があったので、災害時に不足していた物資が届いて助かりました。必要に応じて「助けて」と言える関係が大事でした。

**地**域の人たちがひろばに一時避難させてきて、その対応が大変だったので、そういう事態も想定して話し合っておくことが大切だと思いました。

### 利用者 と共にひろばの対応を考える

緊急時のひろばの対応について、利用者に周知する内容や方法を検討しておきましょう。また普段から、防災の意識を持ってもらうよう利用者と話し合っておくことも大切です。

#### 例えはこんなこと

- 初めての利用時などに災害時のひろばの対応についてどう伝えるか。例えば…開館・閉館の告知方法、非常口・避難経路、広域避難場所、緊急連絡先、防災頭巾・ヘルメットの場所など
- 一時預かり利用者（保護者）が迎えに来られないときの対応について。
- ベビーフードやおむつ、水など、家庭でも3日分の備蓄をしておくことや災害対策をしておくことを啓発する。
- 利用者となりを合わせて大人が子どもを守る場であることを伝える。など



### 消防署 と連携して防災を学ぶ

消防署に連絡して避難訓練や講習会などを開催し、年に1～2回、防災について学ぶ機会を設けましょう。

#### 例えはこんなこと

- 救命・救急の講習会を受ける。
- 避難訓練に参加してもらい、評価を受ける。
- 施設内の、防災対策についてアドバイスをもらう。など

